

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・スタッフの目につく場所に掲示している。 ・入居時にご家族にも説明している。	○	・今後も全スタッフが理念に向けて取り組んで行けるように努力していきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ケアプランにもいれケアに取り組んでいる。	○	・理念が生かせるようなケアに取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ボランティアの方の訪問時や家族の方の面会時にも説明を行っている。	○	・地域の方々にも、グループホームの理解をしてもらえるように自ら地域との交流に足を向けていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・挨拶を交わしたり等しているが立ち寄りの方は少ない。	○	・できるだけホーム外の方々に接していく機会を多く持てるよう努力していきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・お寺の祭りに行ったり、地区の運動会見学に行ったり等して交流を持っているが、もっともっと交流を図っていく必要があると思う。	○	・気軽に取り組んでいけるように自ら足を向けたと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地区の老人会長さんにボランティアの依頼や交流を促している。	○	・運営推進会議等で議題にしているが、個人情報等のこともあり、きびしい面がみられるようになった。コミュニケーションをしっかりとしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・昨年の評価を各々に反省にしたり今後の課題にしたりしている。 ・今回も昨年同様に一人ずつ評価してもらった。	○	・自己評価を社内研修にすることによって、グループホームとはどんな所なのかが改めて理解できたと思うので、ケアの中にかかしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・行政、家族、地区の代表の方々が真剣に取り組んでくださりとてもたすかっている。 ・家族会からホームへの作業等を一緒に取り組みたい等の意見があり、家族のホームへの参加が多くなった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・新しい事業所等へも行き、現状を聞いたり、相談できる機会が増えた。	○	・よい点を取り入れホームの質の向上につなげたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・パンフレットの掲示をしている。 ・7月末には行政で研修が行われる予定になっている。	○	・研修内容をスタッフにもおろして学ぶ機会を多く持っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会を持ったり、個人的に言葉のかけ等に対しては指導を行っている。	○	・言葉かけや接し方の気になる事に対しては都度注意をしている。 ・今後も勉強会等を通して学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・代表者自らに契約を結んでいる。 ・フォローを施設長で行っている。	○	・利用者家族に不明、疑問点はないかどうか面会時には尋ねている。 ・信頼関係の構築に配慮している。 ・今後も代表自らが取り組んでもらえるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ゆっくり話を聞く機会を設けるよう努力している。	○	・何でも尋ねられる、聞ける雰囲気づくりに努めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会時には状況の報告を行ったり、スタッフの入れ替わり時には紹介を行っている。	○	・3～4ヶ月毎に新聞を発行して顔を覚えてもらっている。（スタッフの写真入り）今後も続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情を書けるよう設置箱を玄関に置いている。	○	・不満、苦情の表せる様な信頼関係づくり努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者を交えての意見交換の場を設けている。	○	・スタッフの意見を聞く機会を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・スタッフの人数を多く揃っている所以对応できている。 ・ゆとりある人員の確保ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・半年毎にはスタッフのストレスや人間関係を考慮して異動を行っているが最小限の少数の異動にしている。	○	・合同でレクリエーションをしたりしてユニットの行き来を行っている。今後も続けたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員間で勤務の交代をする等して都合をつけ、研修や勉強会に出席できるようにしている。 ・常勤者だけでなく、パートの人でも向上心のある人は研修や、勉強会に参加してがんばっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・役場を中心に、地域のG、Hのもちまわりの交流会を継続している。	○	・勤務のあいている者が交代で出席できるようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・なかなか定期的にとまではいかないが、忘年会、新年会、職員の歓送迎会等、年に4、5回くらいは設けている。	○	・今後、月に1回程度はレクリエーションや食事会などの場を持てるようにしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・スタッフの努力や頑張りは日々100%以上のものがあると思いますが、把握しきれていない部分もあるかもしれません。でも、その努力や介護状況が入居者の方々の表情に現れてきていると思います。	○	・交流の場をふやしていく事も大切だけれど、その中で本当の意味での親密な信頼関係が持てるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	・初期に本人との対話を多く持ち、全身状態の観察をしていきニーズを把握する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	・不安なこと、求めていることを受けとめ詳細に記録していく→計画の修正。 ・ケース会議を行い、色々な案を更に練っていくようにしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○	・サービスを利用しながら、家族と（報・連・相）を行っていくようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	・家族等との相談がまだ不十分、家族から情報をもっと得るようにしていく。 ・家族の支援、外出等により。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	・本人の身体にふれること、ベッドサイドなどを取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や、担当者会議の時を利用し、家族の気持ちを理解しようと接する態度や、話しやすい雰囲気をつくることで同じ思いを共有できるように努めている。本人と家族の絆の継続ができるようにプランにあげており、面会の依頼等はしている。	○	・家族面会はできるだけ認知症の理解ができ、本人、家族との良い関係が保てるよう、関わってきたい。 ・日常の生活状況の提供。 ・本人、家族、スタッフとの良い関係を築く。 ・家族会の時にパンフレットを渡したり、短時間の講話をした。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族と外出の機会を出来るだけつくっている。 ・家族の関わり大切さを機会あるごとに話して理解していただけるよう努力しており、外出、外泊の機会をケアプランに入れている。	○	・病院受診等は、できるだけご家族同伴で行く様にして家族との関わりを支援している。今後も続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・同ホームに同郷の人がおられる、積極的に話が出来る様仲介。 ・散歩時、馴染みの人に会えることもある。	○	・家族の支援をいただき外出御近所の人、老人会の人々との交流。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・ソファでくつろいでいる時、又レク時利用者同士でレクを行う。職員が積極的に仲介する。	○	・レクレーションのメニュー見直し ・生活全般の見直し。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入院になったの契約終了がほとんどだが、退院後の状況や不幸時の見舞い等を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・無理強いはいさげ、利用者本意に心がけている。 ・医師表示できる方は本人の意思を尊重している。	○	・病状的に難しい面も多いが、本人の思いを引き出すような関わりと本人の意思決定を大事にした い。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・面会時等に情報収集しているが、一人暮らし等の場合はなかなか把握できないことが多い。	○	・社会資源からの情報収集や連携を深めていき たい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・バイタルサインのチェック。生活全般の観察長谷川式認知症のテスト。 ・生活時のADLの状況観察 ・病院受診時、医師のコメント、情報を得る。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・介護計画作成後ケースカンファレンスを行い情報共有、介護計画の見直しを行っている。	○	・担当国会議 ・介護計画を介護支援専門員のみでなく、担当NS、介護士もかかわる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護支援専門員のみが計画の修正を行っている。	○	・担当国会議を行い計画を練り直す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・申し送りノートや電話連絡をしたり等しており、1回/月必ずケース会議を実施している。 ・ケアプランに添った記録が出来る様にスタッフも勉強している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホームでのケアの限界の見極めを行っている。外出、外泊等の機会づくり等を家族と共に話し合っている。 ・方向性を見極めをスタッフ間で話し合ったりしている。 ・家族への状況報告も、要望を聞いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・町内外からのボランティアの受け入れを随時行っている。	○	・知人等に紹介してもらったり等行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他のホームへの訪問を行っている。 ・年間行事計画に入れている。	○	・利用者の方が外に出られる機械づくりを少しでも増やせる様に努めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・対応困難な事例等は包括の方をサービス担当者会議に入ってもらい協力、助言をもらっている。 ・地域包括支援センターとの情報交換の機会がある。（地域ケア会議に参加している）		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診時には経過報告書を作成したり、電話にて状況報告を行ったり、急激な状態変化には受診同行している。	○	・今後も医療機関、家族との連携を図り安心して生活できる様に管理していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医受診時にはケースワーカーさんへの状況報告や、家族と共に受診に同行し、医師からの説明を聞いている。	○	・専門医の医師や職員との連携を図りながら利用者や家族が安心してホームに預けられるように認知症の疾患についても深く学んでいきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・協力医療機関の看護職員や医師との連携を図りながら管理をしている。	○	・今後も医療機関との連携を密にしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院の際は度々面会に行き、状況の確認や今後の見通しについて医療機関の連携を図っている。 ・退院の目途がいたら、医師、家族ソーシャルワーカーを含めて今後の治療方針、GHでの生活について話し合う場を持っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・今後の見通し等を話し合う機会をケース会議で持ち、状況を細かく記録し報告できる様に図っている。（他の施設の情報も収集している） ・状況変化時等は都度家族へ連絡している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・今後予期出来ることや非常事態について計画作成や勉強会等でどう対処するかは比較的周知していると思われる。	○	・ターミナルケア等の勉強会には参加している。 ・スタッフ全員が周知できる様に他のホームへの研修や取り組みの実態を学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	・本人や家族、地域包括支援センターとの連携を 図りながら行っている。	○	・利用者が安心して移り住めるよう努力し、情報 提供など行っていきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	・食べこぼし、排泄失敗などあっても必ず優しく 声かけを行っている。	○	・トイレ使用中、ドアを開けたまま行う時がある ので注意したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	・その方に合った話し、声かけを行っている。	○	・本人の可能性を重視していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	・押し付けがないよう、見守りをしながらレク体 操など行っている。	○	・気持ちにゆとりを持ちながら接していきたい。 ・スタッフの指導を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	・家族の方と外出時にカットに行かれたり、理美 容院の方が訪問し、散髪していただく。	○	・家族の方と一緒にでかけられるよう支援した い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の片付け、食器洗いなど、一緒に行っている。 ・野菜の選別や切り方など手伝ってもらっている。	○	・月に1回でも、散歩をかねた外食など検討していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・飲み物、おやつは毎日提供している ・お酒、たばこを好むひとはいない。	○	・天気のよい日は、テラスでお茶の時間を過ごすようにしていきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・定期的に声かけ誘導を行っている。 ・排泄チェック表を記録、把握できるようにしている。 ・日中、できるだけ布パンツで過ごせるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・体調を見ながら、2日に1回入浴される。 ・声かけにて、無理強いしない。	○	・入浴剤等使用し、気分転換できるよう工夫したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中のレクや、外出散歩にて、安眠できるようにしている。	○	・体調に合わせ、居室にて日中1,2時間の静養を行う等、更に自分らしさができる生活に近づけていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・声かけにて、毎日楽しく役割をしてもらっている。	○	・「お願いしますね」「ありがとう」の声かけを言うようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	・個人のお金は預っていない。 ・殆んどの方は所持金は持っておられない。 ・一人お金を所持されているが、金額は不明であ る。	○	・食事時にお金の事を気にされる方がおられるの で、お金を少し所持された方が良いのでは？と思 う事があるので、ご家族の協力を得たい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	・気候や体調、本人の意思を聞き、散歩に行ったり、 買い物に出掛けたりしている。	○	・車椅子移動の方が多いので家族の方々に協力依 頼し、外出の機会を増やせば…
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	・季節に合わせ、花見ドライブ、外食等スタッフ 同行で年に数回行っている。	○	・家族と共にドライブ等の外出、外泊の支援を心 掛けたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	・ほとんど電話、手紙のやりとりはない。 ・誕生月や母の日等、節目毎に娘さんから電話が あったり、荷物が送ってくることがある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	・古くからの知人、友人が尋ねて来やすい様に声 掛けしている。	○	・何時でも、友人、知人が尋ねて来れる様、言葉 掛けして行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	・出入口の鍵はしていない。 ・身体拘束はしていない。	○	・玄関に感知センサーを設けているので鳴るとす ぐに確認する。 ・身体拘束のないケアをする。 ・言葉掛け接し方も気を付ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・出入口には鍵をかけておらず、鍵をかけないケアをしている。	○	・鍵をかけないケアをこれからも取り組んで行く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者の所在を常に確認し合っている。 ・側近見守り。	○	・職員がホールをカラにしない様、気をつけていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者の目に触れない様、高い所、又カーテンをつけて保管している。	○	・これからも保管、管理には注意する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・側近見守りを行っている。 ・投薬には充分注意している。	○	・各個人のADL状況の把握 ・各個人の行動の把握
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・フローチャートを作成し、実践している。	○	・専門家による応急手当、蘇生法の研修。 ・年に数回は入れていくようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・スタッフ、利用者と避難訓練を行ない、火災報知器の扱い方、誘導の仕方を行なっている。	○	・自衛避難訓練を夜に行なってみる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・利用者に応じた側近、見守り、及び必要に応じた車椅子使用。 ・夜間利用者の対応に応じ、フロアー（和室など）の見守りをする事を行なっている。	○	・家族に説明し同意を得て、協力して頂く。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・B Pチェック（1日2～3回）による、体調不良の早期発見に努めている。 ・スタッフ同士の緊急連絡網を作成している。 ・異変があった際の早期対応を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人処方ファイルは作っている。	○	・スタッフの薬担当を決め、そのスタッフが個別にセットしている。 ・必ず氏名、日時確認を行い、确实投与する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎日排泄管理を行なっている。 ・食事形態や水分補給を摂取量のチェックを常に行なう。おやつ時のジュース等（コーヒー、ココア）利用者の好みに合わせた物を出している。 ・下剤を服用している指示のある方には、体操、散歩を取り入れた運動レクを取り入れてる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後の口腔ケアを行なっている。 ・義歯については、週3回ポリデントにつけている。	○	・肺炎予防に努めている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・残量がある際は、声かけ、介助等にて完食して頂く。 ・水分をこまめに摂取して頂くように努めている。	○	・毎食など摂取量のチェックを記録している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・マニュアルを作成している。 ・ペーパータオルを使用している。 ・手の消毒をしたり、手袋を使用したりしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・利用者が洗浄した後等、熱湯にて消毒している。 ・新鮮な食材を使っている、週3回買い物している。 ・なるべく火を通した物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・花や野菜を育てている。 ・ゆっくり花をながめたりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に応じた物を作成し展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者の好きなところでくつろがれている。 ・居室でゆっくりされたり、フロアでくつろがれたり、ベランダへ出たり、それぞれに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・写真や賞状など壁に貼り、個人の生活観を出 している。	○	・家族に理解していただき、家庭で使用してい た物を環境作りに生かす働きかけを行なってい きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・換気は換気口があり確実にこなわれている。フ ロア、各居室にエアコンが設置されているので、 温度調節も出来ている。 ・湿温度計を設置しているので、それに合わせて 窓明けや、カーテンでも調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・車椅子利用の方が多いので、フロアの空間は広 くとつてある。	○	・テーブルやイスの配置に気をつける。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・洗濯物をたたみ、食器洗浄、掃除など個人に 合った力を出して手伝っていただいている。	○	・言葉掛けを行い、無理なく作業を行なってい ただく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・外回りでは、散歩をしたり、ベランダではピク ニック用のテーブルを利用して、利用者全員でお 茶会を開いている。	○	・その日の利用者の体調に合わせ活動してい きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）